

Kashiwanoha International Campus Town Initiative

柏の葉国際キャンパスタウン構想

2024

フォローアップ調査 2024【概要版】



構想の概要

■構想のねらいと対象

大規模開発が進行する柏の葉地域は、我が国有数の大学や公的研究機関が立地しており、世界水準の先端モデル都市形成に向け、高いポテンシャルを持っています。本構想は、行政、大学、民間企業、市民・NPO 等が連携・協働し、柏の葉のポテンシャルを最大限に生かした先端的で自立した都市づくりを実践するための構想として、2008 年 3 月に策定されました。その後、二度の改定を行い、現行の構想は「データ駆動型のスマートシティの実現」や SDGs の観点等を追加した 2019 年度改定版となります。

本構想の主たる対象区域は、柏の葉キャンパス駅周辺並びに柏たなか駅周辺のつくばエクスプレス沿線の土地区画整理事業区域と、県立柏の葉公園を中心に学術研究機関等が集積する通信基地跡地の土地区画整理事業区域等を含む、約 13km²の区域です。

■構想で描く将来像と理念

“大学とまちの融和”、すなわち、まち全体が大学のキャンパスのように緑豊かで質の高い空間となり、また、知的交流の場となること、本構想の目指す都市の姿です。その実現のために、地域社会に必要な公的サービスを担う「公」、地域の活力と魅力の向上を担う「民」、そして専門知識や技術を基に先進的な活動を担う「学」の各主体が、従来の枠組みを超えて連携し、「公・民・学の連携」による知的交流の中から、新たな知と産業、文化を創造する「国際学術研究都市」となり、これを通じて、優れた自然環境と共生し、健康で質の高い居住・就業環境が実現される、持続性・自律性の高い「次世代環境都市」となることを本構想の理念としています。そして、個別のテーマに沿った 8 つの目標と各目標ごとの推進方針並びに重点施策を掲げています。

■継続的なフォローアップ

本構想は、千葉県、柏市、東京大学、千葉大学が共同で作成したものであり、現在の法制度や政策を超えた提案も含まれています。そのため、「公・民・学」が共同で設立・運営する柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）を事務局として、継続的にフォローアップのための委員会並びにテーマ別の部会を設置し、各団体の協力・連携のもと、実現に向けた更なる検討や関係機関との調整を行い、制度の改善や上位計画へのフィードバックを行いながら推進しています。本冊子は、こうした考え方に基づき年次報告としてまとめ、公表するものです。

8 つの目標

目標 1	環境と共生する田園都市づくり	豊かな自然と都市のみどりにふれあいながら、環境にやさしい暮らしを楽しめるまち
目標 2	創造的な産業空間の醸成	創造的な交流にあふれ、職住が一体となった自立したまち
目標 3	国際的な学術・教育・文化空間の形成	一生「学び」を楽しむことのできる、知的好奇心を刺激するまち
目標 4	サステナブルな移動交通システム	環境負荷が少なく、便利で快適な移動交通が、暮らしの質を高め活力を育むまち
目標 5	健康を育む柏の葉スタイルの創出	あらゆる世代の健康をサポートし、地域の中で一生健康で暮らすことのできるまち
目標 6	公・民・学連携によるエリアマネジメントの実施	支えあいによって地域の暮らしと活力を持続・向上させる自律的なまち
目標 7	質の高い都市空間のデザイン	大学キャンパスのように豊かな緑のなかに賑わいが映える快適なまち
目標 8	イノベーション・フィールド都市	常に最先端の取り組みを受け入れながら、変化しつづけるまち

2024 年度の主なトピック

■開発に係る動向

柏の葉キャンパスエリアの土地区画整理事業（柏北部中央地区一体型特定土地区画整理事業）は、今年度は都市軸道路と 16 号のアンダーパス周辺工事や縁辺部の道路工事などが進められており、2024 年度末で整備面積率は約 56%となっている。

開発に関しては、SMC 柏の葉新技術センター（仮称）の工事が進められるなか、これにあわせた**アクアテラスの改修設計**について協議を行い、デッキの新設等を決定した。また、千葉大学柏の葉キャンパス内では、昨年度開校した Rugby School Japan の対面に「**Biohealth Open Innovation Hub**」が建設され 3 月末に竣工。東京大学柏 II キャンパスには**新世代感染症センター**が開設され、**柏の葉公園内では Park-PFI を活用**した 2 つの飲食施設が 8 月末にオープンするなど、駅西側エリアにおける機能集積が進むなか、「学園の道」の協議の再開に向けた調整が進められた。（目標⑦）

柏の葉キャンパス駅前では最後の大街区（149 街区）の**開発工事が着手**された。今年度は当街区内に建設される**オフィス棟の設計協議**が行われ、着工されている（目標⑦）。

柏たなかエリアの土地区画整理事業は完了し、開発も一段落するなかで、当エリアの生産緑地や農的環境を活かした「**農あるまちづくり**」の持続化や、**新たなコミュニティ形成に向けた環境コンビニエンスーションの活用**など、まちづくりの次の展開に向けた検討や試行を行った（目標⑤）。

■スマートシティプロジェクトと産業創造

2019 年 5 月に国土交通省のスマートシティ先行モデルプロジェクトの指定を受け、実行計画に基づく取組を進めている。

柏の葉スマートシティを支える仕組みの一つである柏の葉データプラットフォームでは、**スマートライフパスを活用した子育て支援スタンプラリーの実施**など、サービスの充実化に取り組まれている。また、昨年度の実証を踏まえて 8 月からは**神戸市全域を対象にサービスを導入**するなど、他都市への展開にも力を入れ、導入例が広がりにつつある（目標⑧）。

柏の葉のリビングラボ「みんなのまちづくりスタジオ」では、今年度も複数のプロジェクトが進められており、新たに整備される二号近隣公園のデザインをテーマにした「**みんなでつくるあたらしい公園**」編を開始。「**みんスタ ONLINE**」では投票機能や AI 分析などの機能も追加。オンサイトとオンラインを組み合わせた参加・共創の仕組みづくりが拡充している（目標⑤⑧）。

「イノベーションフィールド柏の葉」として、従来も様々な実証実験をワンストップで受け入れているが、まちをフィールドとした企業との共創をさらに積極的にサポートする共成長プログラム "**CO-GROWTH**" を仕組みとして整え、リリースした（目標⑧）。

柏市のスタートアップ支援事業は今年度も継続しておりコミュニティも拡大。スタートアップの集積をさらに加速し多様な循環を生み出すための施策や道筋として、昨年度から検討を進めてきた**柏の葉スタートアップ戦略**が 3 月に策定された。（目標②）

毎年秋の恒例イベントとして定着している**柏の葉イノベーションフェス**は、東京大学や産総研の一般公開と同時期に開催し、昨年度好評であった **Talking City** など現地体験イベントを拡充し多く

の来街者で賑わった。一般参加型のアイデアコンテスト“ハツメイノハ”は公開収録形式で事前住民投票なども実施され、高校生のアイデアが優勝した。(目標⑧)

2022年に発足した**柏の葉ライフサイエンス協議会**では、海外を含むエリア内外連携強化、各機関の横断連携による課題解決や社会実装を支援。連携活動としてサイエンスバーを開始した(目標②)。**東京大学大学院新領域創成科学研究科**では7月に**産学共創コンソーシアム**が設置され、動画配信やシンポジウムを通じ大学の研究の発信や産業界との連携に向けた動きが本格化している。(目標②)

■持続可能な次世代都市づくり

国際社会に求められる「脱炭素」に向け、昨年度は柏の葉エリアの数値目標を定めたが、今年度は東大・千葉大・産総研・がんセンターなど**柏の葉の主要な立地機関からなる脱炭素ワーキング**を設置し排出量のモニタリングや施策の共有、さらには連携した取り組み方策について具体的な検討を開始した(目標①)。

昨年度スタートした柏の葉の**環境イベントを“かしわ環境フェスタ”**として開催。「**みんスタ Deco 活編シーズン2**」では住民発意での**アクション**を試行・実践している(目標①)。

交通面では、「柏の葉交通戦略」をベースに**バスシステムの将来イメージを具体化**するとともに短期的に取り組むべき課題を整理。これと関連し、本年度柏市中心部等で導入された**シェアサイクルの柏の葉エリアへの拡大に向けた協議**も始まった。東大シャトルバスの一部として2019年より運行している**自動運転バス**では「**レベル4**」**運転の技術検証**が公道でスタート、国交省のモデル事業として、路面標示サインや交差点改良など**自動運転の実装に向けた走行空間実証**が行われた(目標④)。昨年度から継続している**公道での走行中給電の技術実証**では、住民アンケートも行うなど2年にわたる実証を終え、今後につながる様々な知見を得た(目標④)。

柏の葉キャンパス駅周辺エリアでは、(一社)UDCKタウンマネジメント(UDCKTM)や地元の協議会が中心となった**エリアマネジメント**が行われている。再開された**マルシェコロールは定着し、子どもマイ屋台プロジェクトや市民活動フェスタ**と共催されるなど、様々な市民活動が、マルシェでつながった。まちの人たちの活動は多様に広がっており、意識も高い。それらを支援しつつ、まちの文化や愛着を育てていく土台はできている(目標⑥)。

一方で、**まちの植栽や花壇の継続的な維持管理、ムクドリ対策、高齢化が進む住宅地の暮らしの維持、災害への備え**といった課題が**顕在化**している。ふるさと協議会やまちづくり協議会とも連携し、こうした課題に対応する新たな自治や支えあいのあり方に係る議論を具体化していくフェーズにある(目標⑥)。

今年度は、特に**子どもたち向けの学びや体験のプログラムに力を入れ、充実した**。UDCKでは小学生を対象に夏休みと冬休みにまちの人たちの協力を得て、柏の葉スマートシティならではの学びのプログラムを提供。三井不動産が中心となり**千葉県の小中学生向け起業家育成プログラム**も受け入れ、柏の葉の資源や知見を活かし次世代育成を行っていく足がかりができた(目標③)。



▲自動運転バス走行空間実証



▲柏の葉ライフサイエンス協議会 サイエンスバー



▲小学生向け企画 スマートシティと夏休み



▲柏たなか農あるまちづくり 収穫体験

目標1 環境と共生する田園都市づくり

柏の葉キャンパス駅前街区では、CO₂見える化システムのマンションへの導入、街区をまたぐエリアエネルギーマネジメントシステム（AEMS）の実装など、エネルギー分野で先導的な取り組みを進めてきた。スマートシティ実行計画（2020年3月）においても「エネルギー」をテーマの一つに位置付け、「暮らしの満足度を下げずに省CO₂、省エネを実現する」をテーマに、AEMSの高度化に向けた検討を進めてきた。国際社会において「脱炭素社会」の実現が喫緊の課題となるなか、柏市においても2022年2月に「気候危機宣言」を行い、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」が表明された。こうした状況も踏まえ、柏の葉のまちづくりにおいても目標を「脱炭素」に据えて戦略を練り直す必要性から、2023年度より「脱炭素戦略」の検討を始めている。

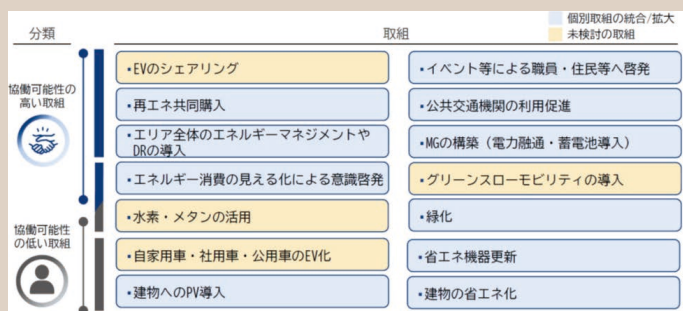
多くの住民が暮らすまちでもある柏の葉では、インフラや建築での対応のみならず、市民の意識を高め、暮らしの中での省エネや、フードロス、廃棄物削減等、社会的関心の高いテーマでの市民参加型のエコ活動を進める必要もある。柏市と連携した啓発イベント（かしわ環境フェスタ）の開催や、市民とともに環境行動を進める活動にも力を入れた。

まちづくりの中では、大規模な建築物の環境配慮に係る協議・調整を引きつづき行っているほか、こんぶくろ池自然博物公園並びにアクアテラスという二つの拠点において、市民と大学・専門家が連携した調査や活動が行われている。

1. 柏の葉脱炭素戦略 | 脱炭素部会

国際社会において、カーボンニュートラルの一刻も早い実現が求められるなか、「2030年に2013年比46%減（家庭由来66%減）、2050年までにカーボンニュートラル」（国の温暖化対策計画2021年10月）という国の目標を柏の葉に置き換え、目標値と方策を定めるべく、昨年度脱炭素部会を設置し検討を開始した。開発や大型計算機も含む研究機関の集積が進む柏の葉では、何もしない場合CO₂排出量は今後も増大することが見込まれるが、地域まちづくり分野での対応も含む各種対策を積極的に行うことで、2030年度の目標値を約5万4千tCO₂（2013年度比▲52%）にまで削減すること、2050年にはカーボンニュートラル（CN）を実現することを目標として定めた。

今年度は、これを実現する道筋や短期的に取り組む方策を見定めるために、東京大学や千葉大学、国立がん研究センター、産総研など柏の葉キャンパスエリアに立地する主要な研究機関や事業所からなるワーキングを設置し、各機関のエネルギー利用の現状や見通し、脱炭素に向けた取り組み方針を共有しながら、まち全体で取り組む内容について議論を深めた。



▲脱炭素化に向け協働で取り組む施策の整理

東京大学柏キャンパスでは、「柏キャンパス GX 推進プロジェクト」として研究会が始められており、2月17日には公開シンポジウムが開催された。

2. 次世代エネルギーに係る実証 | 三井不動産ほか

柏の葉キャンパス駅前エリアで街区間の電力融通を可能とするAEMSが設備更新のタイミングを迎えていることから、機能強化に向けた検討が進められ、AEMSをオープン化し、「KOIL ENERGY FIELD」として、「創エネ」「安定化」「利用」の3つのフレームでエネルギー企業の参画を促しながら進化しつづけるシステムにしている基本方針が整理された。昨年度までに、エクセルギー・パワー・システムズ（蓄電池開発を手掛ける東大発スタートアップ）との電力需給調整に関わる実証実験、東大発スタートアップYanekaraのスマート充電システムを、柏の葉での運用中のEVカーシェアに導入する実証実験がスタートしている。

今年度は、三井不動産が中心となり、柏の葉オープンイノベーションラボ（KOIL）などの柏の葉のオフィスビル2棟を対象に、使用電力などを最適にする実証実験を2月から開始した。上述のエクセルギー・パワー・システムズ、Yanekaraに加え、ダイキン工業などが参画している。



▲実証実験（エネルギー・リソース・アグリゲーション事業）の構成イメージ

3. かしわ環境フェスタ in 柏の葉 開催 | UDCK、柏市

環境への意識を多くの方に広めるとともに、脱炭素につながるまちづくりを考えるイベントとして、昨年度、UDCKが主体となり「柏の葉エコWEEKEND」が初めて開催された。今年度は「かしわ環境フェスタ in 柏の葉」として、柏市との連携がさらに深められたほか、「脱炭素」からテーマを拡げ、環境問題全般について考えるイベントとなった。また、会場間の回遊性を高めて多くのプログラムに触れられるよう、スタンプラリーが実施された。

イベントは広く「環境」をテーマに、「聞く」「見る」「体験する」の3つのカテゴリで、大人も子供も楽しみながら気づきを得られる企画が充実。柏市やUDCKのほか22の団体の協力を得て、4つの会場で23の催しが行われた。

企画の例として、「みんスタ Deco 活編発表会〜地球にやさしいまちの行動をデザインする〜」をはじめ、国立環境研究所が開発した「ミライ地球ガチャ」、多くの企業や市民団体による様々なワークショップ、ごみアート展、こんぶくろ池の散策、参加型の演劇などがあげられる。イベント全体としては約1000名来場を得て、いずれのブースも賑わいを見せた。

ゲートスクエアプラザには、誰でも弾けるストリートピアノが置かれ、プロの生演奏の他、地域住民からも好評であった。後日、ストリートピアノが常設されるなどの成果も生まれた。

- ・日時：令和6年11月17日（日）10:00～16:00
- ・場所：ゲートスクエアプラザ、UDCK、東京大学駅前サテライトホール、KOILスタジオ、柏の葉カンファレンスセンター、ららぽーと柏の葉3F、植物工場、こんぶくろ池自然博物公園



▲かしわ環境フェスタの様子

4. みんなのまちづくりスタジオ Deco 活編

昨年度取り組まれた脱炭素まちづくりを目指す「Deco 活編」を継続し、シーズン2として開催した。社会実装を目指すためにより実践的なプログラムとして設計し、アイデアをまちで実際にプロトタイピング（試行実施）するイベント出店を実施、その結果を元に最終発表をすることでまちに活動が残ることを狙った。11月17日のかしわ環境フェスタでの最終発表でプレゼンしたアイデアのうち二つが社会実装に向けて個別に取り組みを継続している。

環境保全活動としてアクアテラスの清掃イベントを行うチームは11月末に再度テストイベントを実施した。UDCKと柏市から備品と消耗品を提供し、市民だけで継続できるよう仕組みづくりをサポートしている。食品ロスについて考えローリングストックの啓発活動に着地したチームが編集・制作した「ストック食材おいしくリメイクブック」は、柏の葉キャンパス住民向けの防災施設見学ツアーで配布され、災害時の自助の備えの大切さと消費期限間近の食材を賢く消費することを伝える取り組みへとシフトしている。

＜チームとアイデア名＞

- ・3Rチーム「子どもの服の交換会」
- ・サステナブルファッションチーム「簡単リペアワークショップ」
- ・食品ロスチーム「ストック食材を美味しくリメイク」
- ・環境保全活動チーム「アクアテラスクリーントライ」



▲左：子どもの服の交換会 右：アクアテラスクリーントライ



▲かしわ環境フェスタでの最終発表

5. 自然・生態系の保全活動

■**こんぶくろ池自然博物公園** | NPO 法人こんぶくろ池自然の森
NPO 法人こんぶくろ池自然の森を中心に、生態系の調査（調査班）並びに園路等利用環境の整備（里山班）が継続的に進められている。活動の担い手が不足することなく保全・調査が継続できるよう、今年度も新規会員獲得と活動の周知を意識して活動に取り組みました。UDCKはイベントの企画・広報支援をおこなった。

くもの観察会

- ・日時：2024年6月15日 10:00～12:00
- ・場所：こんぶくろ池自然博物公園

きのご観察会

- ・日時：2024年10月20日 10:00～12:00
- ・場所：こんぶくろ池自然博物公園

里山保全活動

- ・日時：2025年2月25日/3月2日/3月17日 9:00～12:00
- ・場所：こんぶくろ池自然博物公園

■**アクアテラス** | UDCKTM ほか

昨年度に引き続き夏場にヒシが繁茂したことから、参加型の刈り取り作業を8月22日に実施しヒシを回収した。

また、通常の維持活動に加えて、11月の柏の葉高校のイベント（テラスをてらそうフェス）にあわせて、高校生たちによるステージの清掃や草刈り、カウンターテーブルのやすり掛けなどを行った。日本学術会議若手アカデミーに係る研究者による、調整池の多面的価値を探るプロジェクトも継続。各分野の専門家による調査報告もかねた公開研究会を UDCK にて開催した。



▲アクアテラス 左：ヒシ清掃 右：公開研究会の様子

今後の課題と展望

「脱炭素戦略」の推進に向けた連携体制が今年度構築されており、今後は具体的なアクションに向けて議論を具体化する必要がある。大型計算機など、多くのエネルギーを消費する研究施設が集まるまちゆえの難しさはあるものの、一方で先進的な機器や仕組みの研究開発や取り組みの実証・実装を、他に先んじて取り組める環境でもある。研究機関や企業連携のもと、柏の葉ならではのアプローチを模索し、目標の達成に向けて歩みを進めべく、国のモデル都市指定なども視野に議論を深める。公・民・学が連携して環境や持続可能な社会について考えるきっかけとして、かしわ環境フェスタ等のイベントを継続開催するとともに、この機会を有効に活用しながら、市民参加型での議論と取り組みを進める。

次年度以降の重点課題

- ▶「脱炭素戦略」の推進に向けた取り組み方策の具体化
- ▶暮らしの中での脱炭素、エコ活動の推進に向けた啓発活動の継続と個別活動の支援

目標2 創造的な産業空間の醸成

地域のベンチャー・中小企業等へはこれまで、柏の葉オープンイノベーションラボ（KOIL）を拠点に様々なビジネス支援メニューが提供されており、TXアントレプレナーパートナーズ（TEP）を中心とした技術系ベンチャー企業への重点的なハンズオン支援も継続されている。昨年度、柏市が主導するスタートアップ支援として、内外への情報発信やスタートアップ・コンシェルジュ事業が始動。これまで KOIL や TEP において行ってきたプログラムと多面的な連携が図られ、支援策も充実している。こうした状況を背景に、まち全体としてスタートアップを育てていくための戦略の検討を進めた。アジア各国から選抜された技術系スタートアップを集め、ビジネスプレゼンを競い合う国際アワードアジア・アントレプレナーシップ・アワード（AEA）も今年度 13 回目を迎えた。久しぶりに対面で開催され、盛り上がりを見せた。

2021 年度には内閣府の Greater Tokyo Biocommunity を構成する 8 つのエリアのひとつとして柏の葉が位置づけられ、東京大学・千葉大学・国立がん研究センター東病院等が連携したライフサイエンス拠点の形成に向け、ソフト・ハードの取組みが進められている。

1. 柏市 スタートアップ・コンシェルジュ事業

■情報発信「柏 STARTUPS」| 柏市、TEP

柏市が昨年度始動させた「スタートアップ・コンシェルジュ事業」において、柏市内に立地しているスタートアップ、柏市内で事業活動を行っているスタートアップ、または柏市内での立地や事業活動に関心のあるスタートアップを対象として、ウェブサイトやパンフレットを通じた「柏 STARTUPS」と題した情報発信を継続している。補助金情報のアップデートや、ローカルマネージャーの常駐情報、イベント開催の様子など、タイムリーな情報発信を実行している。また、市外における情報発信活動としては、TEP が毎年都内で開催している「J-TECH STARTUP 2024」において、柏の葉リンクラボに拠点を構えるリチウム電池の LiSTie が、認定企業 8 社のうちの 1 社として選ばれた。本イベントは、東京都が運営する TiB (Tokyo innovation Base) にて開催されており、都内に向けた柏のスタートアップの発信には好機であった。

■柏の葉スタートアップ NIGHT | 柏市、TEP

「柏の葉スタートアップ NIGHT」は、2023 年度より柏市のスタートアップ・コンシェルジュ事業の一環で開催されている、柏の葉に柏市内外のスタートアップコミュニティを集める交流会である。今年度は第 3 回（9 月 10 日）、第 4 回（3 月 19 日）の二回開催。柏市と TEP が共催し、TEP が企画運営した。いずれもスタートアップ施策でリーダーシップをとる柏市長が参画し、大いに盛り上がった。



▲柏の葉スタートアップ NIGHT

第 3 回では、新しく市内に移転した輝翠（きすい）TECH の事業紹介、第 4 回では、柏市の事業化応援補助金に採択された 2 社の事業の実施報告が行われた。

2. KOIL 及び TEP によるスタートアップ支援

TEP では、技術系スタートアップを対象としたメンタリング、専門家相談などを通年で受け入れている。昨年度からは柏市「スタートアップ・コンシェルジュ事業」のなかで、市内スタートアップに対して経験が豊富なメンバーが常時相談やメンタリングに対応できる体制が構築されており、今年度も継続された。

■TEP ビジネスプラン作成セミナー／KOIL STARTUP PROGRAM

TEP が 2012 年より毎年、KOIL および三井ガーデンホテル柏の葉を会場に開催している「ビジネスプラン作成セミナー」は、今年度は 6 月 29 日と 30 日、7 月 13 日、7 月 20 日に開催された。本セミナーは毎年、柏市の「特定創業支援事業」に認定されており、受講終了生は申請により柏市での法人設立費が半額免除される。

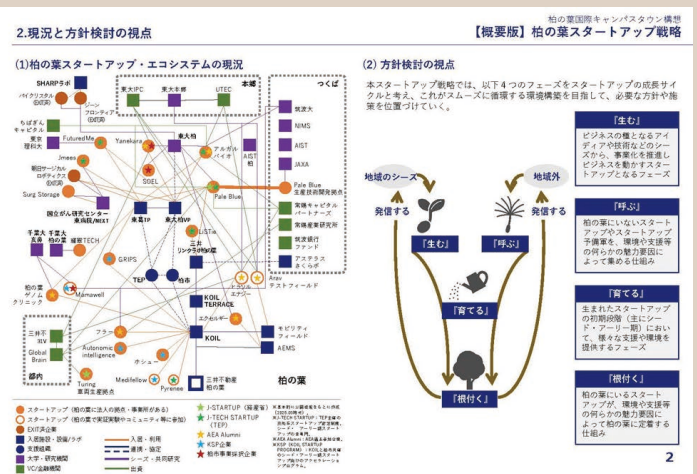
今年度も「KOIL STARTUP PROGRAM (KSP)」が連携開催され KSP に選抜された企業は、上記セミナーを無料で受講できるほか、メンタリングや、KOIL のコワーキングスペース 1 年間無料利用等が追加される。第二期となった今年度は、多数の応募の中から 3 社を選定。「ビジネスプラン作成セミナー」の期間を経て 2024 年 10 月 29 日に最終発表会を実施した。

3. 柏の葉スタートアップ戦略の検討 | スタートアップ部会

2023 年度より、柏市がスタートアップ施策を本格化させ、2024 年度にはスタートアップ部会の活動が本格化している。

スタートアップ部会では、「柏の葉スタートアップ戦略」の策定に向けて、UDCK、三井不動産、柏市、東葛テクノプラザ、東大柏ベンチャープラザのメンバーが参画し、年間を通じて議論を進めた。検討プロセスでは、現在あるスタートアップ向けの環境やプログラム、補助金等の制度を整理するとともに、柏の葉に関わるスタートアップへのヒアリングも行い現状の課題の整理と解決方法の検討に活用した。

2024 年度末をもって、いったん「柏の葉スタートアップ戦略」を取りまとめ、2025 年度以降は戦略に基づいた具体施策を推進する方針である。そのなかで、本戦略は適宜見直しをかけていく。



▲柏の葉スタートアップ戦略（一部）

4. アジア・アントレプレナーシップ・アワード AEA2024

- ・日時：2024年11月20日-21日
- ・開催形式：対面開催
- ・参加費：無料
- ・主催：アジア・アントレプレナーシップ・アワード運営委員会
- ・共催：国立大学法人東京大学産学協創推進本部 / 三井不動産株式会社 / 一般社団法人TX アントレプレナーパートナーズ (TEP) / 一般社団法人日本ベンチャー学会 (JASVE) / 独立行政法人日本貿易振興機構 (JETRO) / 柏市

2024年で13回目の開催となるAEAは、アジア各国から選抜された技術系スタートアップを集め、ビジネスプレゼンを競い合う国際アワードである。本年度は久しぶりの対面開催となり、アジア各国からスタートアップやノミネーターたちを柏の葉に迎えて大いに盛り上がった。昨年同様、「柏の葉賞」受賞者は、柏市の補助事等で採択されるための必要条件を満たすことができるなど、官民の連携が図られるようになった。

本年は、セミファイナルセッションを非公開で開催することで効率性を高め、またファイナリストを6社から10社に増やした。メンタリングについては前年度までと同様、イベント開催までの約1.5か月間、日本のメンター達によりオンラインで実施された。

5. ライフサイエンス・メディカル分野の産業育成

■柏の葉ライフサイエンス協議会

医療ヘルスケアを含む広義のライフサイエンス分野を対象に、単独で解決できない課題（研究・事業・地域課題 etc.）を横断連携により解決することを目的とした「柏の葉ライフサイエンス協議会（KLS協議会）」を2022年度に発足。今年度は、産業集積の促進・ライフサイエンス拠点化の認知度向上に向けて、海外を含むエリア内外連携強化、各機関の横断連携による課題解決やシーズの社会実装支援に向け活動を進めた。2024年2月～6月にかけて全3回のワーキンググループを開催。ここで議論を受け、先端研究の事業化にとりくむ研究者やビジネスパーソン等がビジネスや研究の拡大に寄与する関係性を構築することを狙った「サイエンスバー」をUDCKにて初開催。2024年10月より隔月程度の頻度で開催している。第4回総会（2025年1月23日）では、各組織のライフサイエンスに関連する取り組みの報告に続き、ライフサイエンス拠点としての柏の葉のあるべき姿や各機関の活動の推進・加速について、具体的に迫力のある意見交換がなされた。

柏の葉サイエンスバー

第1回 2024年10月23日

- ・ mRNA 医薬・ワクチン開発の現状と展望ー CDMO の立場からー【アルカリス 柏の葉事業所長中島氏】

第2回 2025年1月17日

- ・ 次世代抗体医薬品等バイオ医薬品開発を推進する基盤技術 Kazanbodytm【Neko Pharma フィリップ氏】

- ・ 錯覚が拓く未来のディスプレイ【東京大学伴先生】

第3回 2025年3月14日

- ・ 千葉大学は柏の葉で何をしようとしているのか？【千葉大園芸学研究院 後藤英司先生】【朝日工業社 技術研究所 副主任研究員 鹿島光司氏】



▲柏の葉ライフサイエンス協議会 第4回総会の様子

■メディカルデバイス・イノベーション | 国立がん研究センターほか

- ・日時：2024年10月22日（火）16:00～19:20
- ・会場：柏の葉キャンパス・KOIL 6F ※オンライン同時配信（zoom）
- ・会場・定員：80名（先着順）
- ・主催：国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院、独立行政法人 中小企業基盤整備機構 関東本部、一般社団法人TX アントレプレナーパートナーズ
- ・後援：厚生労働省、経済産業省、千葉県、柏市、公益財団法人 千葉県産業振興センター

国立がん研究センター東病院、中小企業基盤整備機構関東本部、TEPの共催で、柏の葉キャンパスにおけるメディカルデバイス（医療機器）イノベーションのエコシステム構築を目指し「第8回メディカルデバイス・イノベーション in 柏の葉」を、対面およびオンラインのハイブリッドで開催した。

6. 新領域創成科学研究科 産学共創コンソーシアム

東京大学大学院新領域創成科学研究科において、企業等や社会との協創を通じて新たな価値創造と社会変革に資する学術活動を発展させるための業務を担う部署として、2023年11月に「産学共創推進室」が設立され、2024年4月から本格的な活動を開始している。7月には「産学共創コンソーシアム」を設置。交流会やシンポジウムを通じてアカデミアの持つ知の発信と、企業との価値創造に向けた取り組みを推進している。

「産学協創推進室開設シンポジウム」ー研究科の価値、新たな価値づくりへー

- ・日時：2024年10月2日（水）15:00～17:55
- ・場所：柏の葉カンファレンスセンター（三井ガーデンホテル柏の葉）

7. 企業・研究機関立地のための土地条件の整理

ライフサイエンス拠点化に向けて、昨年度「土地利用戦略」を見直し、国立がん研究センター東病院周辺エリアを「研究開発型産業創出地区」に位置付けた。ウェット系ラボ施設などの集積に向けて、今年度は、がんセンターやリンクラボの敷地について、地権者から都市計画提案が行われ、土地利用制限が一部緩和された。

今後の課題と展望

公・民・学が連携した強力なスタートアップ支援環境、並びにオープンイノベーションに向けた連携体制が整いつつある。策定した「スタートアップ戦略」に基づく支援体制を構築し、「スタートアップの街 柏の葉」を打ち出していく必要がある。柏の葉ライフサイエンス協議会をベースに、特にライフサイエンス分野において国立がん研究センター、東京大学、千葉大学も加わった産学共創やビジネス実装支援の体制も進化。今年度開設した東京大学の新世代感染症センターに加え、次年度には千葉大学のBIHも稼働する。また、来年にはSMCの新技術センターも開業予定であり、駅前ではモノ作りを対象にした業務棟の建設も進むなど、ハードテック分野での共創もテーマとなる。これらの機運を活かしながら、関連分野の研究開発機能のさらなる集積に向け、引きつづき柏の葉に関わる企業や研究機関、行政等のコミュニティを強化していくとともに、立地に必要な土地利用条件整理や施設整備をさらに進めていく必要がある。

次年度以降の重点課題

- ▶ 「スタートアップの街」としての支援策強化と情報発信
- ▶ ライフサイエンス分野、ハードテック分野における共創コミュニティの強化と対外的な情報発信

目標3 国際的な学術・教育・文化空間の形成

国際的な学術・教育環境の形成を目指す柏の葉エリアにおいて、昨年英国の名門校 Rugby School Japan が開校。多くの生徒や外国人教職員が暮らし始めており、海外からの居住者やワーカーが暮らしやすいまちづくりへのニーズはこれまでになく高まっている。

子ども対象の教育・体験プログラムについては、かつて UDCK がまちのプロモーションも兼ねて企画・主催してきた「未来こどもがっこう」や「ピノキオプロジェクト」は休止しているが、その一方で小中学校や高校の教育活動との連携が拡大している。昨年度は柏の葉高校1年生の探求学習としてアクアテラスでのイベントを開催した。今年度は小中学校のコミュニティスクール事業とも連携しながら、子どもたちを対象とするプログラムが大きく進んだ。

都市環境デザインスタジオをはじめ、大学や研究機関が主導する形で、多様な専門人材育成プログラムも継続されている。

1. 地域環境の国際化 外国人の生活環境や交流機会

■国際化部会

留学生や外国人研究者ならびにその家族の生活環境を整えることが、国際学術研究都市の実現には欠かせない。昨年度、Rugby School Japan (RSJ) が開校し、今後さらに外国人教職員の増加が見込まれる。また、優れた技術系スタッフをグローバルに確保するスタートアップ等の企業を誘致・育成していくうえでも、まちの生活環境の国際化はますます重要となっている。

いまいちど取り組むべき課題と方針を整理するために、久しぶりに地域環境国際化部会を開催した。東京大学大学院新領域創成科学研究科、IPMU、RSJ、三井不動産、UDCK、柏市をメンバーとして、地域の国際化に係る課題と取り組み状況を共有。次の3項目を重点課題として進めていく方針を確認した。

- ①まちの飲食店が外国人にとっても気軽に使える場となるよう、メニューの英語化、ハラルメニューの表示、入るきっかけとなるイベント開催などを実施
- ②病院や行政窓口における外国語対応強化について、柏市を含めて検討を具体化
- ③柏の葉ナビやイベント情報の外国語化を、学生を含む地域人材の協力や自動翻訳サービスの導入などにより推進

■国際交流プログラムの支援

柏の葉エリアでは、東大留学生や柏の葉在住の外国人との交流、異文化に触れる機会の提供に関わる活動が複数の団体によって継続的に進められている。UDCK ではこれらの活動について場所の提供や情報発信などで協力を行った。

HELP YOU PROJECT 非言語ワークショップ

- ・日時：2025年2月22日(土) 13:00-15:30
- ・非言語(言葉以外の伝達手段を使ってコミュニケーションすること)を学ぶ機会を提供。人種を問わず家族や友人、ビジネスマンなど、異言語話者と接する際のコミュニケーションの悩みに「非言語」を導入することで、交流を深められる体験型ワークショップを開催。

Global Bunny『言葉が魔法に変わる瞬間を体験せよ!』

- ・日時：2024年7月17日(水) 16:00-17:30
- ・サンフランシスコを拠点とする革新的AIスタートアップ、Create.xyzの創設者とチームが研究のまち柏の葉に訪。シリコンバレー発の最先端技術とスマートシティを牽引するまち「柏の葉」のイノベーション精神が交差する企画。

柏市国際交流協会 (KIRA)

- ・「柏の葉スマートシティの見学」を実施。パレット柏で行われた「茶道体験」は東京大学柏キャンパスでも周知され、国際交流が図られた。



▲左：非言語ワークショップ 右：『言葉が魔法に変わる瞬間を体験せよ!』

2. Rugby School Japan の地域連携プログラム

柏の葉の国際化を進める中で、昨年 Rugby School Japan (RSJ) が開校し、1年あまりが経過。生徒や教員が柏の葉での生活に慣れてきた今、RSJの生徒・教員と地域の子どもたちや住民が交わる機会を増やし、相互理解を深めるためのイベントやプログラムが、RSJとの連携のもと企画・実施された。

体験授業 | Community Service DAY

- ・開催日：2024年6月22日(土)
- ・柏の葉の子供たちがスポーツ、音楽、美術を通じて地元のラグビースクールでの生活を体験。計20名の参加があった。

柏市70周年記念事業 Try the future 柏の葉 at Rugby School Japan

- ・開催日：2024年10月26日(土)
- ・柏市制施行70周年を記念し、柏市在住の小学3～6年生を対象としたラグビーを通じた交流イベントをRSJにて開催。NECグリーンロケッツ東葛の選手も参加し、約80名の小学生が、ラグビーや柏ハカの体験、学校見学等を行った。

3. 子どもを対象とした学びのプログラム

■小中学校の学習プログラムとの連携・支援

小学校低学年の地域学習の一環として、今年度は富勢小学校の三年生(6月5日)、土小学校の三年生(6月25日)ならびに柏の葉小学校の二年生(10月11日)の校外学習ツアーをUDCKで受け入れた。柏の葉中学校では、一年生の探求型の学習プログラム「柏の葉のまちづくり提案」が行われ、2月27日に発表会が開催された。柏の葉小中学校ではコミュニティスクールを通じ、これら以外にも地域人材によるキャリア講座や子ども向けプログラムの発信、PTAバーの開催など、地域連携が進んでいる。

■夏休み・冬休みの学び・体験プログラム | UDCK

柏の葉で活動する方々の協力を得て、子どもたちにこのまちでしかできない学びと体験の場を提供すべく、今年度新たに「スマートシティと夏休み」「スマートシティと冬休み」と銘打った小学生自由研究プログラムをUDCKにて企画・開催した。プログラムを公募し、20近い市民、企業、行政から、科学やICT、作文、料理、まちづくりなど様々な分野のプログラムが集まった。専用サイトを作成し発信したほか、小学校でもチラシを配布。多くの参加者を得て、満足度も高かった。

スマートシティと夏休み

- 期間：2024年8月5日(月)～2024年8月9日(金)
- 場所：UDCK、KOIL、KCC、京葉ガス、チコル
- 参加者数：約260名
- 参加団体・企業：計20団体

スマートシティと冬休み

- 期間：2024年12月20日(金)～2024年12月24日(火)
- 場所：UDCK、KOIL、京葉ガス、東大ホール、植土工場、ららぽーと柏の葉
- 参加者数：約150名
- 参加団体・企業：計17団体

■アソビはマナビプロジェクト | UDCK

孤育てや放課後の子どもの居場所の不足など、新しいまちならではの問題が柏の葉でも顕在化している。子育てしやすいまちづくりに

向け、今年度「アソビはマナビプロジェクト」を始動した。主に子どもの外遊びに対する地域の大人の理解を育み、「地域全体で子どもたちを緩やかに見守り、子どもが伸び伸びと成長できる土壌を形成すること」を目的に、今年度は、元祖プレーワーカーである天野秀昭氏をお呼びしたフォーラムを開催し、学びの場を提供した。

- ・日時：2024年7月6日（土）14～16時
- ・場所：東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト 1階ホール
- ・タイトル：遊びは生きる力になる—子ども時代の遊びの大切さと大人の関わり方

■柏の葉高校 ハレかしぜみ | NPO 法人キャリア base

昨年度スタートした県立柏の葉高校の1年生普通科280名を対象にした探求授業。今年度の授業は、4月18日から12月5日までの全15回にわたって実施された。「地域レクチャー」からスタートし、生徒たちでグループを組み、アイデアを出し合うワークを進め、11月7日に、集大成としてアクアテラスでイベント“テラスをてらそうフェスタ”を開催した。

イベントでは、未就学児向けのボルダリングや滑り台を備えたブースをつくるなど、地域のニーズを踏まえた新たな取り組みもあり、参加した高校生からは「大変なことも多かったけど楽しかった」といった前向きな声が聞かれた。

■ちば起業家育成プログラム小中学生編 | 千葉県、三井不動産
千葉県では、これからの社会を担っていく小学生・中学生を対象に、アントレプレナーシップ向上を支援するとともに、起業機運の醸成を図るため、起業家育成プログラム小中学生編を実施している。二年目の今年は、柏の葉キャンパスエリアをフィールドに三井不動産が協力し、「世界がワクワクするまちを提案しよう！」をミッションとするプログラムが実施された。

- ・期間：2024年8月20日～27日
- ・参加者：小学4年生から中学3年生までの33名



▲ちば起業家育成プログラム小中学生編

4. 大学による教育プログラムとの連携

■都市環境デザインスタジオ | 東京大学・千葉大学など

2006年度から続く、東京大学・千葉大学・東京理科大学・筑波大学が共同で実施する大学院生対象の都市デザイン演習である。今年度は柏の葉キャンパスエリアを対象に「交流を促すデザイン」を課題とした。10月～1月までのグループワークを通じて、バスステーションやドリンクスタンドなどの提案がなされた。1月25日には恒例の公開講評会を実施し、住民や実務者と意見交換が行われた。

■国際共同ランドスケーププロジェクト演習 | 千葉大学

千葉大学大学院園芸学研究科の学生を対象とする「国際共同ランドスケーププロジェクト演習」を千葉大学柏の葉キャンパス内のグリーンフィールドを対象として実施。「地域と大学をつなぐファニチャー」をテーマに3グループがデザイン・製作を行い、約3か月にわたって設置した。11月18日に開催された講評会には住民や近隣施設関係者などが参加し、意見交換と交流が行われた。



▲国際共同ランドスケーププロジェクト演習で製作・設置されたファニチャー

■多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム | 千葉大学

「障害者支援」×「高齢者支援」×「都市農業支援」×「QOL向上」をテーマに、多様な農福連携プログラムを企画・運営する知識・実践能力を持つ人材育成を目的に、千葉大学環境健康フィールド科学センターが2019年度から実施している履修証明プログラムである。今年度も、導入コース（9月～2月）、応用コース（4月～8月）、園芸コース（4月～1月）の3つのコースが開講された。

2024年4月には修了生により活動組織「柏千会」が設立され、「ノウフクマルシェ」の企画運営を担っている。

5. 柏の葉エリアの立地機関の連携・交流と情報発信

■柏の葉地区交流会

柏の葉エリアに立地する学術・研究機関等のネットワーク形成や共通する課題への対応、情報発信等を目的に2002年から行われている交流会である。民間団体も参画できるよう昨年度規約を改定し、2024年度末現在20団体が参画している。今年度は2025年2月7日にUDCKにて開催し、RSJの見学を行った。また、当地区交流会が主催するイベントとして、産総研の協力のもと中学生向けプログラム「科学者って何をする人？」が12月24日に行われた。

■街まるごとオープンキャンパス2024 | UDCK 他

柏の葉のまちを一つのキャンパスに見立て、10月～11月末の2ヶ月間で開催されるイベント・フォーラムなどを紹介するUDCKの広報連携企画。今年度は特設ウェブサイトに加えて、紙パンフレットも作成した。

今後の課題と展望

教育研究の面においても、ビジネスの面においても、地域国際化部会での議論をもとに、外国の方々がストレスなく暮らせる地域環境づくりを公・民・学連携で進める必要がある。また、このポテンシャルを活かし、様々な交流の中から国際性豊かな体験や学びの場を生み出すことも重要である。

地元の小中学生、高校生にとってはもとより、対外的にも各世代に合った学び・体験プログラムをつくり、最先端の実践知が得られる柏の葉ならではの学びを一層充実化し発信していくことも求められる。

次年度以降の重点課題

- ▶地域の国際化 / 外国籍者も暮らしやすいまちづくり推進方策の見定めと公・民・学の連携による推進
- ▶小中学生・高校生を対象とした独自の体験・教育プログラムの充実と発信、受け入れ環境の構築



▲左：送電コイルが埋設された道路と実験車両

3. 柏 ITS 推進協議会 | 柏市、東京大学ほか

「柏 ITS 推進協議会」では、5つの部会において、研究開発・実証実験が継続されている。今年度から着任された東京大学の平岩准教授が部会長を務める二つの部会（中心市街地活性化部会ならびに公共交通部会）は合同部会として開催している。

企画部会の自動運転バスの実証運行、交通情報利用部会の ETC2.0 プローブデータ活用、中心市街地活性化部会の ICT 活用による道路の簡易劣化診断は、スマートシティプロジェクトとも連携しており、柏の葉での実証が進んでいる。新車両検討部会では、EV の走行中給電（道路面にコイルを埋め込み、ワイヤレスで充電するシステム）について、昨年度から実施している公道による現地実証実験を継続し、データの取得やアンケート調査による社会受容性の評価を実施した（前述）。

▼柏 ITS 推進協議会の部会構成と活動テーマ

部会	活動テーマ
企画部会 (須田東京大学教授)	次世代モビリティの実展開の検討
交通情報利用部会 (大口東京大学教授)	各種交通情報を収集した ITS 地域研究センターの地域施策への活用
中心市街地活性化部会 公共交通部会 (平岩東京大学准教授)	ICT 活用を通じた中心市街地の交通問題解決と活性化対策の検討 利便性向上に向けた公共交通網の再編案の検討と効果検証
新車両検討部会 (藤本東京大学教授)	地域内の移動手段の選択肢拡大に向けた交通モードの導入検討

4. 柏の葉交通戦略検討

交通に係る様々な技術開発や実証実験が行われる一方で、柏の葉エリア内の移動利便性の向上も大きな課題となっている。

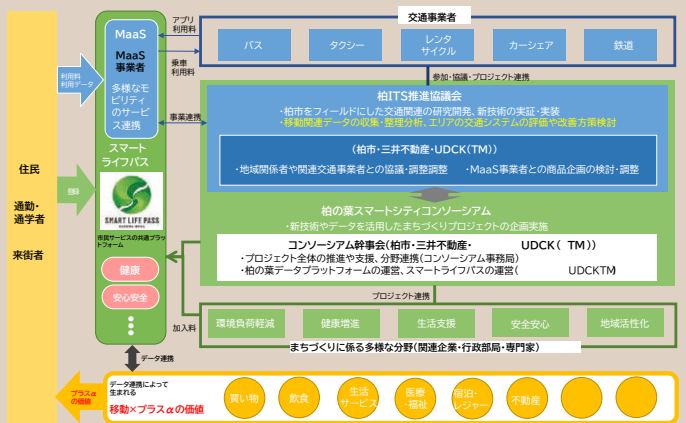
柏の葉キャンパス駅から東京大学までを含む半径 2km 圏を主対象に、様々な新規技術導入と利便性・安定性を両立させた柏の葉の将来のモビリティのあり方（ビジョン）を提示する「柏の葉交通戦略」の検討を進めている。昨年度までに大枠が完成しているが、課題解決型だけでなく、新たな暮らし方や移動を生み出すライフスタイル創造型の打ち出しとなるよう、構成の見直しを行った。交通戦略の一つの柱となる自動運転バスの検討の方向性を見据えながら、確定・発表のタイミングを見計らっている。

今年度は、自動運転バス導入に向けた検討状況を踏まえつつ、具体的に進めるべき短期施策の検討を進めた。また、全体の推進体

制について、ITS 推進協議会が主体となった柏の葉エリアの交通マネジメントの体制構築に向けた協議も進めている。



▲柏の葉エリアで短期的に取り組むべきモビリティ関連施策（案）の整理



▲柏の葉エリアのモビリティマネジメント体制イメージ

今後の課題と展望

柏 ITS 推進協議会を主体として、柏の葉エリアを中心に様々な実証実験が活発化している。これらは個別に異なる補助事業等で推進されているものの、柏の葉キャンパス駅の半径 2km 圏をつなぐラストマイルモビリティの強化という目的は共有するものが多い。「柏の葉交通戦略」に基づき、地域循環バスを骨格としながら自動運転や EV 化に係る最先端技術を積極的に取り入れ、これらを自転車や新たなパーソナルモビリティが補完する次世代型交通ネットワークの構築に向けて、関係者で将来像を共有し、総力を挙げて取り組みを具体化することが期待される。柏市中心部では今年度民間シェアサイクルが導入され、柏の葉エリアへの展開に向けた機運も高まっている。バスに加えて、自転車をはじめとするパーソナルモビリティの利便性向上に向けた議論を、改めて進めていくフェーズでもある。

マルチモーダルでストレスなくアクセスおよび回遊できるモビリティの向上に向けて、持続的なサービス基盤をつくるとともに、データ管理やサービス連携を含めた交通マネジメント体制の構築が急がれる。

次年度以降の重点課題

- ▶自動運転バスレベル 4 の実証とその後の本格実装に向けた方針構築
- ▶自転車やパーソナルモビリティの走行環境・利用環境の整備
- ▶ITS 推進協議会を中心とした交通マネジメント体制の構築

目標5 健康を育む柏の葉スタイルの創出

まちの健康研究所「あ・し・た」は、2014年の開設以来、「あるく・しゃべる・たべる」に関わる情報提供や、さまざまなイベント・講座等を通して、参加型健康づくりを推進している。柏の葉スマートシティプロジェクトでは、「ウェルネス」を一つの柱としており、「日常生活の中で健康を維持できる」をテーマに、2020年11月から「スマートライフパス」を介した個人の健康データを活かしたサービスが展開。「あ・し・た」というリアルな場と「スマートライフパス」のデジタルサービスの連携により、暮らすだけで健康になるまちづくりを推進している。

子育て世代がますます増加するなかで、あ・し・たは柏市による子育て支援拠点の一つとしても活用されているほか、民間によるものも含めて、子育て支援や子どもの居場所、産前産後ケアなどに係る多様なプログラムが広がっている。

農や食に係るプロジェクトとして、柏たなかエリアでは「農あるまちづくり」をテーマに各種体験プログラムが継続されているが、開発フェーズが終わるなかで、地域が主体となった持続的な仕組みへの移行が求められており、今年度様々な試行を実施した。

1. まちの健康研究所 あ・し・た | 三井不動産ほか

まちの健康研究所「あ・し・た」の2025年2月末時点の会員数は約3,760名であり、このコミュニティは、企業や研究機関による実証実験のモニター群としても有効に機能している。今年度は、延べ200名の会員が東京大学鈴木穰研究室や、企業の実証実験に参加し、会員にとっては社会参加、最新の研究や技術に触れる機会となった。2025年1月からは、放課後ラボが主催する「柏の葉こどものシェアオフィス」に週2回イベントスペースを無料で提供。今まで利用が少なかった小学校高学年から高校生が利用するようになり、高齢者から乳児まで、すべての世代が利用する施設となった。

2025年3月には、10周年を記念し、ららぽーと柏の葉でシニア会員、スタッフ、ゲストがモデルとなってランウェイを歩くファッションショーを開催。あ・し・たの会員、スタッフが若々しくアクティブであることや、若年層を対象としたららぽーと柏の葉館内の店舗の服でも着こなしやコーディネートで高齢者も十分に着用できることを発信した。

昨年度からスタートしたウォーキングステーションの利用者も増加しており、定番の運動・食・美容アドバイスに加え、ミニ遠足、折り紙サロン等のイベント、近隣の整骨院やコンディショニングトレーニング施設による無料講座も継続して開催している。施設の持続的な運営に向け、2025年度中に現在の無料サービスに加え、有料会員システムや有料コンテンツを導入するリニューアルを行う予定である。



▲あ・し・た 10周年 ファッションショー

2. 内閣府SIP 包摂的コミュニティプラットフォームの構築

- ・研究代表機関：国立大学法人筑波大学
- ・研究実施機関：株式会社つくばウェルネスリサーチ / 株式会社 FIELD BOOK
- ・協力：柏の葉アーバンデザインセンター（柏の葉エリア）
- ・スタジオ実施主体：まちの健康研究所あ・し・た / 株式会社マザーブラネット

女性の健康づくりと、女性を支える子育てに寛容な社会づくりを目指す内閣府のSIP事業のモデル地域の1つとして柏の葉キャンパスエリアも23年度にモデル地域として参画。女性の筋力低下や運動不足を解消するための「健幸スマイルスタジオ」の実施方法と、社会の寛容性を向上するためのPR技術の開発を目指して柏の葉の民間事業者や行政と協力して活動した。

今年度は友達紹介キャンペーンやオンラインイベントの実施、既存会員の口コミからの会員数増加を狙った。“MOM UP Park”と、銘打った女性の健康増進を支えるスタジオを年間を通じて柏の葉の子育てフロア複合施設チコルで実施。毎回10組ほどの親子が参加した。

3. スマートライフパスと関連サービス | UDCKTMほか

スマートライフパスの登録者は3000人を超えている。AI活用による健康アドバイスを提供する「カロママプラス」、パーソナルフィットネスアプリ「Beatfit」、バイタルデータ管理サービス「Health Data Bank」、医療従事者による健康相談ができる「MedicalNote」、ベビーシッター・家事代行マッチング支援の「KIDSLINE」、デジタル施策支援サービス「マイグル」など多様な提携サービスを提供している。またこれらを活用したサービス開発プロジェクトも複数進行中である。（目標8参照）

4. ヨーグルトで街にミライをプロジェクト | 明治、UDCKTM

（株）明治と（株）UDCKタウンマネジメントにより、「柏の葉スマートシティ×明治『ヨーグルトで街にミライをプロジェクト』」が2023年度にスタート。柏の葉をフィールドに企業の知見や商品・サービスを取り入れて、住民の健康増進活動の実践を推進しようというもので、2つのプログラムが行われている。今年度は、まちのイベントへの出張企画なども含め、より多くの方に知っていただくための活動に取り組まれた。次年度以降、他プログラムとの連携により地域への浸透をはかるとともに、柏の葉スマートシティ内の各研究機関との連携を視野に入れた取り組みを進めるべく検討中である。

■ウォーキングルト

ウォーキング方法の指導と、ヨーグルトをはじめとした適切な栄養補給の方法や水分の摂り方の紹介を組み合わせたプログラム

■お口から体調管理教室

手洗い・うがいの徹底だけでなく、歯磨きにも力を入れた体調管理プログラム



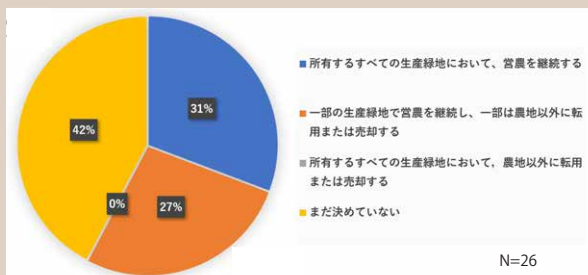
▲ウォーキングルト（左：柏の葉ウォーキングフェスタ参加 右：実施の様子）

5. 柏たなか農あるまちづくり | 農あるまちづくり実行委員会「農あるまちづくり実行委員会」（委員長 野田勝二 千葉大学講師）を中心に、農業体験農園の運営や収穫祭等のイベントを支援している。これからの時代における農や食の価値を再評価し、持続的にこれらの活動を定着させていくべく、今年度は各取組の内容や実施体制を工夫しながら、様々な試行を実施した。

■体験農園支援

2024年度は3園89区画のうち73区画が利用されてきたが、うち1園が2024年度末をもって閉園となった。残る2園で区画数を増やし、2025年度は2園68区画として募集を行い、67区画の応募を得て稼働する予定である。

この体験農園の事業は土地区画整理事業の中で生産緑地をできるかぎり保全すべく支援を行っているものであるが、数年後に地区内の多くの生産緑地が法的期限を迎えることを見据え、生産緑地所有者に対するアンケートを実施。現時点で明確に継続意向のない農家が多いこと、一方で体験農園に関心を持つ農家も一定数いることが明らかになった。この状況も踏まえて、次年度以降個別ヒアリングなどを通じて生産緑地の維持に向けた活動を進めていく。



▲生産緑地アンケート（今後10年程度の生産緑地（営農）の継続意向）

■サークル活動・環境コンビニ運営

農あるまちづくりの活動拠点として柏たなか駅前公園内に設置・運営している「環境コンビニステーション」は、地域活動の場としての利用ニーズが高まっている。地域活動の場、ひいてはコミュニティ形成の場としてより有効に施設を活用すべく、利用に係る規約を改定し、より多くの団体利用を受け入れた。一方、開発フェーズが終わりつつあるなか、環境コンビニの運営に係わる公的財源は削減が見込まれることから、より自立した拠点運営に向けて、今年度地域サポーターによる閉館時活用の実証を開始した。

■イベント

運営効率化のために実行委員会のイベントとしての「朝市」開催は見送り、個別農家による自主販売を環境コンビニで受け入れるかたちとし、体験農園「宝珠」により販売会が開催された（7月14日）。夕涼み会や収穫祭など商店会主催イベントはコロナ禍の影響も薄まるなか、盛大に開催された。

- ・夕涼み会 : 7月20日（土）20店舗 来場者3009名
- ・子ども収穫体験 : 11月2日（土）来場者50家族
- ・収穫祭 : 11月23日（土）37店舗 来場者約1492名

■公園内菜園・花壇

駅前公園内の菜園2区画と花壇2区画の管理を継続した。菜園ではキャベツ、カボチャ、サツマイモ、落花生、カブを栽培し、年間を通じて収穫体験を開催。サポーターとともに活動を行った。花壇は、運営体制が不十分で満足に維持ができていないことから、区画を1区画に絞ることとし、残り1区画の今後の活用方策について検討を進めた。

■農業体験ツアー

「農あるまちづくり」の持続化に向け、参加費のみで運営する農業体験ツアーの実現可能性を探る企画を検討。6つの企画を実施した。その過程で民営化を視野に入れ運営体制のスリム化も図った。一足飛びに完全民営化は難しいものの、一定のフォーマットはできたことから、事務局経費を下げながら継続する見通しは立った。

- ・田植え体験 : 5月19日（日）31組110名
- ・たけのこ収穫&サツマイモ植え付け体験 : 6月15日（土）28組97名
- ・ブルーベリー狩り体験 : 8月3日（土）10組32名
- ・稲刈り体験 : 9月22日（日）37組126名
- ・餅つき体験&ライスセンター見学 : 1月13日（祝）16組58名
- ・焼いも&ベジタブルプランターづくり体験 : 1月26日（土）9組42名

これらに加えて、一定の運営費拠出を前提とした新たな体験プログラムとして、「農あるピクニック」を企画開催した。農業体験、旬の野菜などの調理体験、公園内でのピクニックランチを通じた「農と食のコミュニケーション」を盛り込んだパッケージ企画として実施。満足度の高い企画となったことから、次年度も季節に応じたイベントとして継続開催を予定している。

- ・農あるピクニック : 3月22日（土）7組20名



▲左：子ども収穫体験（11/2） 右：田植え体験（5/19）

今後の課題と展望

まちの健康研究所あ・し・たは多様な世代の暮らしと健康を支える場として、日常的な利用も増えている。「あ・し・た」や子育て支援拠点である「チコル」の場所やコミュニティを活かした企業や研究機関の研究・開発プロジェクトが拡がりつつある。スマートライフパスを活用したサービス創造やライフサイエンス拠点化構想に基づく研究開発が今後さらに活発化することが想定されるなか、先進的な健康関連プロジェクトと地域住民の暮らしや健康をリンクさせ、双方にとってメリットのあるものとしていくためのコーディネートが重要になる。そのための「ビジョン」の共有や体制の整理が今後の課題となる。

柏たなか農あるまちづくりは、今年度の試行を踏まえ、企業や地域団体との連携も模索しながら、プロジェクトの持続・発展を目指していく必要がある。千葉大学環境健康フィールド科学センターをはじめ、まちなかや近傍に農地や農に係る研究拠点があるポテンシャルを活かし、農の体験や食育など、食の面から健康を支えるプロジェクトを柏の葉キャンパスエリアも含めてさらに充実していくことが重要である。

次年度以降の重点課題

- ▶ まちの健康研究所あ・し・たの持続的運営体制の構築
- ▶ 最先端研究×住民の暮らし・健康のコーディネート、健康まちづくりに係わる全体ビジョンの検討
- ▶ 地域の農業や食に係る活動推進と魅力発信（柏の葉・柏たなか）

目標6 公・民・学連携によるエリアマネジメントの実施

2019年1月に設立された(株)UDCK タウンマネジメント (UDCKTM) が柏市と協定を結び、柏の葉キャンパス駅周辺の歩道・植栽と柏の葉アクアテラスの管理運営を担っている。キャンパス駅周辺では、市民団体による花壇管理が行われ、柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会による清掃活動も継続している。

コロナ禍が去り、マルシェ・コロールやハロウィンなど市民有志や地域団体等による地域イベントも再び活発化している。NEC グリーンロケッツ東葛のホームタウン活動やラグビーニュージーランド代表(オールブラックス)との連携など、ラグビーを軸にしたスポーツ振興も進められている。

「柏の葉地域ふるさと協議会」「柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会」をはじめ、多様な地域団体や市民有志の活動は活発化しており、まちを支え、盛り上げていく力として期待されるものの、活動場所や支援体制を含め、地域活動の環境は未だ十分とは言えない。UDCK ではプロジェクト連携会議やK サロン等を開催し、地元住民や市民団体間の情報共有や交流を行っている。

1. 柏の葉キャンパスエリアの公共空間管理 | UDCKTM

■柏の葉キャンパス駅西口

再整備から10年が経過し、経年劣化が目立ちつつあるなか、パラソルの補修・ウッドデッキ補修・バスシェルター清掃、サイネージの入替工事などが実施された。

毎年夏季の課題であるムクドリ対策としては、これまで同様に交通島内にムクドリを集める戦略的剪定を行ったほか、6月と8月に市民やワーカー有志を募り、臭い対策として清掃を行った。

■柏の葉アクアテラス

アクアテラスではドラマ等の撮影利用も増えている。柏の葉高校一年生が主催する“テラスをてらそうフェス”(11月7日)は今年度2回目が開催された。アクアテラス全体でステージイベントやキッチンカーの出店などがあり、大いに賑わいを見せた。

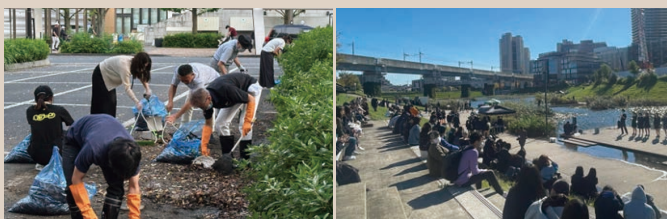
■イルミネーション

柏の葉の冬の風物詩でもあるイルミネーション。従来は11月から翌3月まで点灯していたが、今年度はムクドリ対策としての効果を探るため、まだムクドリが残る9月に設置・点灯を開始したものの効果は一時的なものに留まった。

■柏の葉マルシェコロール

柏の葉のまちでできること・やりたいことがより実現しやすい環境をつくることを目的に、市民有志が2022年度から復活させた「柏の葉マルシェコロール」は、5月と11月の2回開催。子どもマイ屋台プロジェクト(5月、11月)、東葛女性農業ネットワーク(11月)、市民活動フェスタ(11月)との連携など、他イベントが相乗りする地域活動のプラットフォームとなっている。

- ・第6回 テーマ「母の日」(2024年5月11日)
- ・第7回 テーマ「食×文化の秋」(2024年11月2～3日)



▲左：駅前の落ち葉清掃 右：テラスをてらそうフェスの様子

■花壇の管理

柏の葉キャンパス駅周辺の花壇については、柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会が資金を負担し、二つの市民団体「かし＊はな」「花山会」が管理を担ってきたが、昨年度末で「花山会」が解散。高架沿いの多くの花壇は十分に手入れされない状況が続いており、今後の体制構築に向けまちづくり協議会にてアンケートを実施した。

2. AIカメラの運用 | UDCKTM

まちの安心・安全性向上のため、スマートシティプロジェクトの一環として、柏の葉キャンパス駅周辺の既存の街灯にAIカメラを計29台設置し、2021年9月より運用している。異常行動(倒れる、うずくまる、凶器所持等)、アクアテラス(閉鎖時)への立ち入り検知、人流解析を実施しているが、異常行動検知については、検出精度や駆けつけ体制等の問題から本格運用に至っていない。人流データについては、活用方策を模索するなか、今年度(株)アイ・トランスポート・ラボによりAIカメラの人流データを活用したナウキャスト実証実験が行われた。

3. スポーツを活かしたまちづくり

2024年6月には三井不動産とオールブラックスが、新たにスポンサー契約を締結。(2024年6月～2027年12月)。マオリオールブラックスのキャンプや関連イベントが実現した。NEC グリーンロケッツのホームタウン活動として、まち装飾やアフター街ファンクションイベント、1万人CREW計画への活動支援などが実施された。

4. ふるさと協議会とまちづくり協議会

■柏の葉地域ふるさと協議会

2020年に設立されたふるさと協議会活動も5年目となり、活動も活発化している。2024年度は、主に以下のイベントが開催された。

- ・ボランティア交流会 : 7月13日(土)
- ・認知症講座 : 9月20日(金)、11月16日(土)、3月22日(土)
- ・クリスマス花火 : 12月25日(水) ※強風で一日延期
- ・防災講演会 : 2月8日(土)

近隣センターの設置に向け柏市で検討が進められているものの、場所等についての明確な方針はまだ定められていない。暫定的対応として2024年4月からららぽーと柏の葉4階の空き区画に事務所を設置し、運用を開始している。

■柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会

美化緑化部会では、月三回の駅前清掃を行い、12月28日の年末大掃除には20名以上が参加した。また、駅周辺花壇管理について住民アンケートを実施した。防災安全部会では、恒例の防災施設見学ツアーを1月25日に実施。抽選で選ばれた約40名が参加し満足度の高いイベントとなった。健康福祉部会では、まちの健康研究所「あ・し・た」の協力も得て、相続セミナー(11月16日)、在宅医療セミナー(2月8日)が開催された。その他、市民団体等によるイベントに対する協賛を通じて、まちの交流促進を図っている。

5. 市民団体・地元事業者による活動支援

毎月最終月曜日にUDCK プロジェクト連携会議を開催し、イベント実施者、施設管理者などとイベント報告と次月度以降の予定を共有する場を設けている。そのほかにも、交流会「Kサロン」の開催、ポータルサイト「柏の葉ナビ」やSNSなど各種メディアを使った情報発信・連携を行っている。

■Kサロン

UDCK 設立以来継続している月末水曜 19 時からのまちの交流会。地域の方々の関心の高そうなをまちのトピックに基づくテーマを各回設定し、ゲストスピーカーを招いている。今年度は東京大学とのコラボ企画を 2 回開催したほか、柏たなかでの開催も試みた。



▲Kサロン全 12 回の開催テーマ

11 月 K サロンでは柏の葉小 PTA の発案で地域の教育関係者、保護者、住民の交流を深めることを目的とした PTA バーを開催。本企画は K サロンから独立し、3 月に第二回が開催された。

■柏の葉街まるごとハロウィン 2024

保育施設「チコル」の発意により 2020 年より開催しているハロウィンイベント。今年はテーマを『つながる・ひろがる・きらめく』とし、10 月 26 日、27 日の二日間開催した。恒例のキャン디スポットラリー（20 か所）やフォトスポットに加え、当日でも参加できる企画「仮装 de ダンス」やワークショップも開催。スタンプラリー予約数も 1500 枚と 1.5 倍に増やし一週間程度で定員に達した。

■夏休みラジオ体操

2021 年より柏市青少年相談員連絡協議会等が主催し、夏休みのラジオ体操を開催している。今年度も 8 月 26 日から 29 日の 4 日間、朝 7 時から柏の葉ラジオ体操を行った。今回で 4 回目と、地域に定着しつつあるこのイベント、今年は千葉大学正門前広場が工事中で使えなかったことから、かしわのはらっぱで開催。総勢 190 名の子供達と保護者、柏の葉地域の住民が参加した。



▲左：柏の葉街まるごとハロウィン 右：夏休みラジオ体操

■ひかり隣保館 2024 柏の葉わくわくマルシェ

駅前から少し離れた福祉施設ひかり隣保館では昨年度からスタートした「わくわくマルシェ」の第二回が 10 月 27 日に開催された。UDCK では企画支援と広報支援（サイネージ掲載、動画・チラシ作成支援、SNS 発信）を行った。昨年度の倍近い参加者があり、賑わいを見せた。

■市民活動サポートコーナー 市民活動フェスタ

柏駅前を会場に毎年開催されている市民活動の見本市「市民活動フェスタ」が、今年初めて柏の葉にて開催された。地域を超えた市民活動の相互交流を促し、柏市全体の市民活動の活性化を目指したものである。11 月 3 日のマルシェコロールにあわせて開催され、37 団体が参加し多くの来場者を得た。本事業は市民活動サポートコーナーによる柏市制 70 周年記念事業として実施された。



▲市民活動フェスタ with マルシェコロールの様子

6. 情報発信とプロモーション

■ウェブサイトや SNS を通じた情報発信

通常のイベント開催情報は柏の葉ナビや UDCK の SNS で、共創に係るまちの動きや事例紹介は柏の葉スマートシティのウェブサイトや SNS で、まちづくり活動のアーカイブは昨年リニューアルした UDCK のウェブサイトで継続的に発信している。

■ロケーションサービス <https://www.kashiwa-location.jp/>

映像作品のロケーション撮影の支援を行い、番組ロケ・ドラマ・映画撮影等を通じて、柏の葉の PR を行うことを目的に、昨年度 UDCKTM がロケーションサービスの HP を作成。柏市のフィルムコミッションと連携し、今年度も多くの撮影誘致に成功している。

■小学生向けパンフレットの発行・頒布

（社）UDCK タウンマネジメントでは、こどもたちの放課後の居場所「あおぞらルーム」を運営する hilo の協力のもと、まちの最新情報を、小学生にも興味を持てるように編集して、柏の葉小学校へ配布する取り組みを開始し、2025 年 2 月号を発行した。

今後の課題と展望

緑豊かな都市環境が柏の葉・柏たなかの魅力となっているが、公共空間管理に関わる官民の財源も限られるなかで、十分手がかけられていない箇所も顕在化している。継続的に緑を増やし、これらを適切に維持管理していくための体制・仕組みづくりに向け、地域活動の支援や新たな財源の獲得などによって、これらを進める必要がある。

学びや交流など様々な分野で地域活動が活発化しているものの、その活動を支える環境は十分とは言えない。こどもの安全や高齢者の暮らしを支える活動、防災活動など、地域の安全な暮らしを守る地域活動についても、ふるさと協議会やまちづくり協議会を中心に関係機関が連携し、また、柏の葉ならではの新たな知見や技術も取り入れながら推進することが求められる。懸案となっている近隣センター整備のあり方に係る議論も始めるべきフェーズにある。

活動団体どうしでの情報共有や連携体制について、UDCK の役割を整理しながら、適切な方法を模索する必要がある。

次年度以降の重点課題

- ▶ 公共空間の質の維持管理の仕組み構築
- ▶ 公共と地元組織、企業が連携した地域課題の解決
- ▶ 近隣センターのあり方に係る地元主導の検討・協議

目標7 質の高い都市空間のデザイン

柏の葉キャンパスエリアでは、空間デザイン部会並びに中核地区戦略部会において、公共空間の高質化協議や主要街区の開発に係る景観協議を行い、質の高い都市空間形成を推進している。今年度は、駅前149街区のオフィス棟、SMC新技術センター整備にあわせたアクアテラス再整備、2号近隣公園などについてデザイン協議を行った。2号近隣公園については「みんなのまちづくりスタジオ」の仕組みをつかった参加型プロセスを取り入れている。

また、千葉大学では研究施設 Biohealth Open Innovation Hub の建設が行われ、周辺においても施設立地が進んでいる。柏の葉国際キャンパスタウン構想に定める「学園の道」の利活用ニーズが高まるなか、その機能や空間像について検討を再開すべく準備が進められた。UDCKは景観整備機構として柏市の景観行政を支援しており、柏の葉キャンパス駅周辺等の景観重点地区における建築の事前協議や屋外広告物協議を担っている。今年度も地域密着型での景観マネジメントが進められた。

1. 景観協議 | UDCK、柏市

2016年度からUDCKが景観整備機構として、景観重点地区の建築の事前協議や屋外広告物協議を担っている。今年度、UDCKでは15件の景観協議を行った。種別では、屋外広告物12件、建築物3件という内訳である。区域の内訳はキャンパス駅周辺9件、2号調整池周辺6件であった。柏市が直接受けた景観協議は計4件であり、全体の79%程度の事前協議をUDCKが受けた。これらの協議を通じて、クリニック建物の色彩調整や工事用仮囲いの広告表示面積の是正などを実施した。その他にも、工作物、駅舎、照明等に係る景観の相談に対応している。

■柏の葉キャンパス駅舎増築に関わるデザイン調整

TXの混雑緩和を目的とした8両化に向け、各駅でホーム延伸工事が順次行われるなか、今年度、柏の葉キャンパス駅における基本設計が行われた。駅舎の増築部分について、UDCKにて現地立ち合いを行い、既存の駅舎部分に配慮した増築部分のデザインについて協議を行った。

■かけだし横丁の広告物デザインガイドライン調整

駅周辺の店舗では、開業後追加で貼付される窓面広告物等について十分コントロールできておらず、高架下のかげだし横丁では一部無秩序な状態になっていた。

今年度、窓面広告物を適切に誘導するとともに、柏の葉キャンパス駅周辺景観重点地区景観形成基準に定めている広告物の基準について各店舗の店主へ周知を図るべく、かけだし横丁管理会社、三井不動産、UDCKにて協議を行い、「テナントルールブック（改訂版）」、「デザインガイドライン（案）」及び「良好な外装イメージ（案）」を作成し、店主会にて規制のルールを示した。



かけだし横丁「良好な外装イメージ」▲

2. 開発に係るデザイン協議 | 中核地区戦略部会

■柏の葉キャンパス駅東口149街区 オフィス棟

駅前最後の開発となる149街区の整備内容について、2023年度より全体方針やランドスケープ、住宅A棟に関する協議を行ってきた。2024年度は今年度着工することとなったオフィス棟のデザインについて、中核地区戦略部会においてプランについて総合的な協議が行われ、隣接する建物どうしや建物とオープンスペースの関係への配慮など様々な指摘がなされた。その内容を踏まえて案を修正したのち、市の条例に基づく景観アドバイザー会議と空間デザイン部会を合同で開催し、建物の外観（色彩や低層部の設え）や外構（植栽等）について具体的な助言がなされた。

工事はA棟及び駐車場棟が2024年6月から、オフィス棟（C-1棟）が11月から着工しており、竣工はオフィス棟が最も早く、2026年1月に竣工予定である。



▲149街区オフィス棟のイメージパース

3. 公共空間高質化に係るデザイン協議 | 空間デザイン部会

■せせらぎの小径

国道16号の北側にある1号調整池と2号近隣公園をつなぐ緑地帯「せせらぎの小径」の設計について、昨年度の空間デザイン部会で採用されたチゴザサ案をベースに設計案が詰められたものの、植栽やベンチの設置等に対して、地元から否定的な意見が寄せられたことから、本緑地帯の整備の緊急性・重要性は低いと判断。今年度中の整備自体を見送ることとし、再び機運が高まった時に整備内容を再検討することとした。

■SMC新技術センター整備にあわせたアクアテラスの再整備

アクアテラス沿いに立地するSMC（仮称）柏の葉キャンパス新技術センター（2025年10月竣工予定）の建設と外構整備に伴い、当施設とアクアテラスとの境界部の取り合いを調整するとともに、アクアテラスの更なる高質化を図るべく、アクアテラス再整備検討会議を発足した。当会議は中核地区戦略部会と空間デザイン部会の合同部会として位置づけ、その下にデザインWGと管理体制検討WGを置いた。

2024年5月よりデザインWGをスタート。アクアテラスの再整備（高質化）を担う三井不動産負担が主導する形で整備項目の整理が進められた。10月からはアクアテラスの当初設計を担当した日建設計、オオバも加わってデザイン検討を進め、12月に開催された第1回アクアテラス再整備検討会議にてその内容を諮った。その後、デザインWGと管理体制検討WGを通じてデザイン案を詳細化し、2025年2月の第2回アクアテラス再整備検討会議にて、再整備内容について方針を共有・確認した。法肩の歩道舗装や転落防止柵の高質化、SMC側オープンカフェと隣接する位置への張り出しデッ

キの新設、既存張り出しデッキの改修、法面の回遊動線の新設、法肩の植栽更新などを実施することが決定した。加えて、全体的な維持管理レベルも見直す方針である。



▲アクアテラス再整備イメージ

■ 2号近隣公園設計検討 市民参加プロセス企画

地域からの早期整備のニーズを受け、今年度柏北部中央地区2号近隣公園の設計プロポーザルが行われた。空間デザイン部会での協議過程で、より利用者ニーズに沿った公園計画とする必要が指摘され、柏の葉のリビングラボ「みんなのまちづくりスタジオ」の枠組みで公園づくりワークショップ(WS)を開催することとなった。「みんなでつくる あたらしい公園」とプロジェクト名を定め、現地型WSと、24時間意見が投稿できるみんスタ ONLINE の仕組みを併用し、連携させながら多くの方の意見を取り入れる企画とした。現地型WSは各回異なるテーマを設定し、前半に講師よりテーマに沿った話題を提供。WS参加者は、自分の知識や経験に加えて、新たなインプットも踏まえて後半のWSに臨むことができるものとした。3月2日には近隣住民等の関心を得るためのイベントとして、公園予定地を使ってみるイベントを実施し144名が参加。3月16日より第一期WSがスタートし、4月末までに4回開催される予定である。第一期WSでは、住民より利用の仕方や欲しい空間・機能についてアイデアを募り、設計者がそれらの意図を汲み取り、設計に反映させて公園計画を完成させることを目標としている。



▲ 2号近隣公園 みんスタの告知とイベントの様子

4. 公共サインの追加整備 | 空間デザイン部会

過年度に作成した「公共サイン整備方針」に従い、必要性の高いところから順次公共サインの整備が進められている。

今年度は、柏の葉キャンパスエリアに、3か所の小拠点サイン(マッ

プ付きの板状サイン)と、2か所の誘導サイン(矢羽根サイン)を新設した。設置に際しては、設置業者・市・UDCKの立ち合いの下、サインの見え方や地下埋設物との取り扱い、将来的に新設の可能性のある横断歩道の設置位置等を考慮して詳細な位置を決定した。

5. 学園の道に係る協議準備

千葉大学柏の葉キャンパス内では、昨年度開校した「Rugby School Japan」に続き、その対面にあたる正門付近に「Biohealth Open Innovation Hub」が建設され3月末に竣工。隣接する東京大学柏IIキャンパスには「新世代感染症センター」が開設された。柏の葉公園内ではPark-PFIを活用した2つの飲食施設が8月末にオープンするなど、駅西側エリアにおける機能集積が進んでいる。こうしたなか、駅から大学や公園ゾーンをつなぐシンボル軸・連携交流軸としての「学園の道」のあるべき姿(基本的な機能や空間像)と、その実現方策について、改めて「五者会議」を通じて協議すべく調整を進めており、次年度スタートする予定である。



▲竣工近い千葉大学 Biohealth Open Innovation Hub

今後の課題と展望

柏の葉キャンパスエリアでは、千葉大学 BIH、SMC の新技術センター、149 街区オフィス棟等、まちの顔をつくる重要な施設のオープンを控え、これらにあわせた周辺のオープンスペースの整備が重要なテーマとなる。具体的には、「学園の道」についての五者会議の再開、アクアテラスの再整備に向けた設計や管理区分の詳細化、柏の葉キャンパス駅東口の高質化、こんぶくろ池自然博物公園付近における「緑園の道」のあり方検討などである。

柏北部中央地区2号近隣公園で開始した新たな市民参加型のプロセスについては、引きつづき地域の声を取り入れるための様々な方法を導入しながら、設計や運営に反映させていく必要がある。

これまで整備されたきた公共空間のうち、公共管理部分を中心に街路樹や植栽帯について十分な管理ができていない状況がある。デザインだけでなく、質を維持するための管理のあり方についての議論を進めることも求められている。

次年度以降の重点課題

- ▶ 「学園の道」・「緑園の道」のあり方検討
- ▶ 149 街区整備にあわせた柏の葉キャンパス駅東口や TX 高架沿い歩道部の高質化検討
- ▶ 公共空間の質の維持のための基準整備や体制の構築

目標8 イノベーションフィールド都市

柏の葉では、まちづくりの中で先導的あるいは実験的なプロジェクトを進んで受け入れ、共創によるイノベーションを生み出すフィールドとなることを目指している。

2019年5月には、国土交通省のスマートシティのモデル事業に柏の葉スマートシティコンソーシアムの提案が選ばれ、2020年3月に実行計画を策定。モビリティ、エネルギー、パブリックスペース、ウェルネスの4分野でプロジェクト群を推進している。これらを支えるのが、①柏の葉データプラットフォーム（KDPF）、②柏の葉リビングラボ「みんなのまちづくりスタジオ」、③実証実験のプラットフォーム「イノベーションフィールド柏の葉」の3つの仕組みである。KDPFに紐づくスマートライフパスのサービスは、今年度神戸市で本格導入され、全国展開への一歩を踏み出した。また実証実験をより積極的に受け入れ、支援する仕組みとして、今年度新たに共成長ビジネスプログラム「CO-GROWTH」がスタートした。

1. 柏の葉スマートシティプロジェクト

■コンソーシアムの運営とプロジェクトの推進

柏の葉スマートシティコンソーシアムの参加団体は2025年2月時点で31団体となっている。今年度は柏の葉スマートシティコンソーシアムの全体会議を、5月9日、11月20日、3月25日に開催した。会議では、実行計画に基づく各分野のプロジェクト及び実行計画の見直しの進捗状況、参加団体の取組みなどの共有がなされ、参加団体間の認知や交流にも繋がる機会となった。昨年度から引き続き柏の葉スマートシティのホームページでは、参加団体を取材し取組みの紹介や団体のPRを行っている。

今年度新たな試みとして、会員向けの柏の葉スマートシティツアー並びに会津若松の視察研修を実施した。前者は3団体から8名、後者は、6団体から9名に参加いただいた。

過年度より国の補助を受けて取り組んできた「遠隔チェックイン」プロジェクトは、システム開発まではできているが、多くの方に利用されるサービスとして社会実装できるよう、他分野のプロジェクトとの連携も視野に枠組みを整理しているところである。



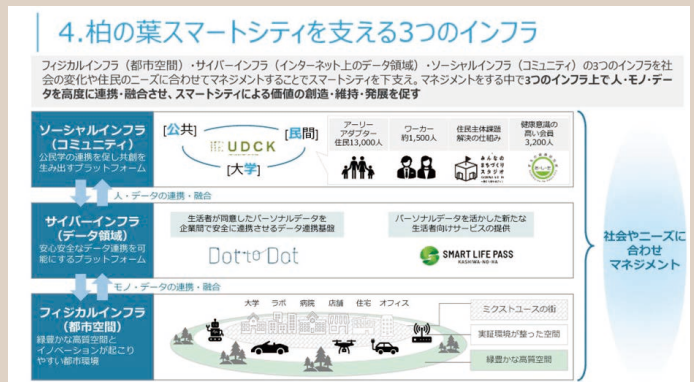
▲会津若松視察研修

■スマートシティ実行計画の改定

スマートシティ実行計画の策定から5年が経過し、個別に実証・実装が進むなか、改めて今後の方向性を定めるべく、昨年度より実行計画の改定を進めている。地域の生活者や関係者に対して柏の葉スマートシティの目標を共有すべく、新たに「スマートシティ・ビジョンブック」を作成することとし、昨年度、住民や企業とのワークショップ等を通じて議論を進めてきた。

今年度は、このビジョンブックをベースに定めた5つのテーマにそって今後の取り組み方針に係わる議論を深め、「実行計画」を取

りまとめた。参加団体への意見照会を経て、最終化し公表予定である。



▲柏の葉スマートシティビジョンブック（案）の一部

2. 柏の葉データプラットフォーム【データ活用基盤】

柏の葉データプラットフォームは、生活者向けサービスを提供するポータルサイト「柏の葉スマートライフパス」と、生活者が同意したパーソナルデータを企業間で安全に連携できるシステム「Dot to Dot」で構築されている。従来、情報管理の問題から難しかった企業や研究機関、行政などが保有するデータを連携し、相互に活用できるようにすることで、全く新しいサービスや、パーソナルデータに基づいてカスタマイズされたサービスを提供することを目指している。2020年11月の運用開始以来、関連するサービスが充実し、スマートライフパスの登録者は柏市内だけで5000人を超えた。スマートライフパスでは、AI活用による健康アドバイスを提供する「カロママプラス」、パーソナルフィットネスアプリ「Beatfit」、バイタルデータ管理サービス「Health Data Bank」、医療従事者による健康相談ができる「MedicalNote」、ベビーシッター・家事代行マッチング支援の「KIDSLINE」、デジタル施策支援サービス「マイグル」など多様な提携サービスを提供している。

■子育て支援スタンプラリー

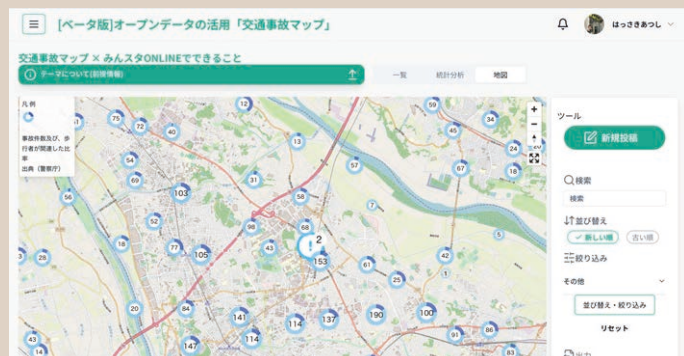
2024年3月、(株)ギックス、三井不動産(株)、(一社)UDCKタウンマネジメントの三者が、子育て分野の課題解決に資するサービスを共同開発し、将来的に他分野への拡大や柏の葉スマートシティ発のサービスを日本全国へ横展開することを目指すための業務提携契約を締結。昨年度に引きつづき、今年度も3期（8月、11月～1月、3月～5月）にわたって子育て支援拠点の利用促進等によってスマートライフパスのポイントがたまる実証実験「子育て支援スタンプラリー」を開催した。本実証実験は、柏市の協力（後援）も得て行われている。

■データプラットフォームの神戸市への展開

神戸市はマイナンバーカードを活用した健康増進サポート「KOBE Sports & Well-being City Project」を運営している。2024年1月から「スマートライフパス」を当プロジェクト参加者100名へ提供し、二都市で同一プラットフォームを共同利用することでの運用コストの低減や、導入効果の検証が行われた。実証実験を経てその効果が確認されたことから、2024年8月に神戸市全域において「スマートライフパス」、「Dot to Dot」が本格導入されることとなった。地域サービスとして「子育て支援スタンプラリー」、「こども一時預かりモニター」を神戸市内で実施している。

3. みんなのまちづくりスタジオ 【市民共創プログラム】

柏の葉のリビングラボプログラムとして2020年度にスタートした「みんなのまちづくりスタジオ（みんスタ）」は、今年度は、Deco活編シーズン2（目標①参照）、みんなでつくるあたらしい公園編（目標⑦参照）を開催。また、オンライン合意形成プラットフォーム「みんスタ ONLINE」では、地図機能がアップデートし、投稿場所のGPS付加だけでなくデータマップを同期できるようになった。シビックテックの普及、実施に取り組むCode For Kashiwaのメンバーが作成した「交通事故情報マップ」をみんスタ ONLINEのスペースに搭載し、市民ユーザーの反応をみるために試験運用した。



▲みんスタ ONLINE 交通事故 MAP の可視化

4. イノベーションフィールド柏の葉 【実証実験プラットフォーム】

■共成長ビジネスプログラム「CO-GROWTH」

(株)UDCKタウンマネジメントが、公・民・学の連携基盤を活かし、R&D（研究開発）、PoC（実証・社会受容性検証）、実装・発信を実現するパートナーを募集する共成長ビジネスプログラム「CO-GROWTH」の提供を新たに開始し、11月20日にリリースした。先行実施していた(株)明治との取り組み「柏の葉スマートシティ×明治ヨーグルトで街にミライをプロジェクト」（目標⑤参照）をモデルとしており、「実証の場の提供」「まちの多様なプレイヤーとの共創」という、2つの価値をパッケージ化し、プログラムとして提供。柏の葉のまちで企業等が『新商品開発』、『サービス実証』および『サービス実装・情報発信』できる取り組みである。

CO-GROWTHが提供できること								
PHASE	RESEARCH & DEVELOPMENT 研究・開発	PROOF OF CONCEPT 実証実験	SOCIAL IMPLEMENTATION 実装・発信					
	 研究や技術実証、 アカデミアや企業との連携による 共同研究・技術開発が可能	 サービス実証・社会受容性検証、 柏の葉の街に新サービスや 商品のテスト導入が可能	 市場や産業を創造し、 住民の暮らしから実証することで 街から社会を変えていく					
SOLUTION	 街の生活者との 課題発見・ ニーズ発見	 スマートシティ インフラを活用した 新サービス開発	 スマートシティ インフラを活用した 実証実験	 街のアカデミアや 企業との 共同研究・開発	 街への テスト導入による 社会受容性検証	 街での新商品・ 新サービス実証	 街の場で 生まれたアイデアの 社会発信・中核	 街の街への展開
PARTNER IMAGE	 スマートライフパーク	 LaPort	 川住デザイングループ	 KOIL	 Mitsui Garden Hotels			

▲CO-GROWTHの提供価値

■イノベーションフィールド柏の葉

柏の葉のまち全体を実証フィールドとして提供していくためのワンストップサービス「イノベーションフィールド柏の葉」を2019年度より運営している。本年度は、以下の2件のプロジェクトが完了した。

<2024年度完了プロジェクト>

- ・AR×地域コミュニティアプリ「GROOVIN」
- ・藻サプリメント Moneru による睡眠・業務パフォーマンス改善効果の実証

5. 柏の葉イノベーションフェス

日程：2024年10月26日（土）～10月27日（日）
主催：柏の葉イノベーションフェス実行委員会
共催：三井不動産株式会社 / (株)UDCKタウンマネジメント
後援：柏市

柏の葉スマートシティからイノベーションを創出・発信するイベントとして、2019年より「柏の葉イノベーションフェス」を毎年10月末に実施している。

6回目となる2024年は、柏の葉で日々起きているイノベーションを対外的に発信し、スマートシティの進化を伝えること、公・民・学のプレイヤーが一体となって参加し、柏の葉の取り組みへの共感、理解を促しシビックプライドを醸成すること、また、東京大学、産総研の一般公開と同時期に開催し、柏の葉のアカデミアの取組を住民に公開することをねらいとした。なかでも、昨年のイノベーションフェスで盛り上がった Talking City やハツメイノハのコンテンツをパワーアップし実施された。

Talking City

・2024年は設置箇所を100か所に増設、当日に声を吹き込める Talking Tree も設置した。

ハツメイノハ

・ハツメイノハは KOIL TERRACE アトリウムにて公開収録形式で開催。事前の住民投票も実施した。「こまもりマーク」という子育てに協力したい人々が付けられるマークのアイデアを提案した高校生が優勝した。

6. スマートシティの情報発信とプロモーション

■WEBサイト、SNSを通じた情報発信 | UDCKTM

柏の葉スマートシティ WEB サイトや Facebook などを通じて、まちの様々なプレイヤーや活動を高頻度に発信。WEB サイトでは、スマートシティコンソーシアム参加団体の取材・PR も行った。

■市民向けガイドツアーの開催 | UDCK

地域住民に対するスマートシティの周知を進めるために、小学生向け「スマートシティツアー」を2回（通常編、モビリティ編）、大人向け「スマートシティツアー（エネルギー編）」を1回の計3回開催し、合計で27名が参加した。

今後の課題と展望

「スマートシティ実行計画」「ビジョンブック」において、柏の葉スマートシティの目指すものや当面進めるべきプロジェクトが整理されたので、これに関係者で共有し推進する。

AIカメラや各種センサー等による「まちのデータ」をつなぎ、計画的なまちづくりやサービスに活用する仕組みも求められるが、これまでの議論や各地で取り組みも踏まえ、地域の暮らしやサービス提供者の実務に寄与する仕組みのあり方について、議論を深化化する必要がある。

まちぐるみで新たな体験やサービスを共創し、課題解決につなげられるまちを目指し、「みんなのまちづくりスタジオ」や「みんスタ ONLINE」のほか、今年度構築した「CO-GROWTH」の仕組みも活用し、共創事例をつくりあげていくことが求められる。

次年度以降の重点課題

- ▶スマートシティ実行計画・ビジョンブックの共有と発信
- ▶まちのデータの活用・連携の仕組みづくり
- ▶共創の仕組みの活用と事例創出

Kashiwanoha International Campus Town Initiative

柏の葉国際キャンパスタウン構想

フォローアップ調査 2024【概要版】

2025年 3月



KASHIWA-NO-HA

柏の葉国際キャンパスタウン構想委員会

(千葉県 + 柏市 + 千葉大学 + 東京大学 + 三井不動産株式会社)